

The Delphion Integrated View

Get Now: ☒ PDF | [More choices...](#)

Tools: Add to Work File: [Create new Work File](#)

View: [INPADOC](#) | Jump to: [Top](#)

☒ [Email this to a friend](#)

Title: JP6038825A2: UNIT TYPE SHOWER

Country: JP Japan

Kind: A

Inventor: AONO MASAJI;
KITAURA HIROMI;
CHIYAU BIN DATSUKU;

Assignee: IDEC IZUMI CORP
[News, Profiles, Stocks and More about this company](#)

Published / Filed: 1994-02-15 / 1992-07-23

Application Number: JP1992000196734

IPC Code: [A45D 19/06](#); [A47K 3/22](#);

Priority Number: 1992-07-23 JP1992000196734

Abstract:

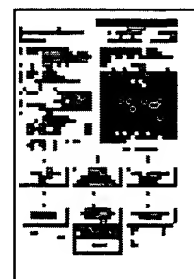
PURPOSE: To provide a unit type shower provided with a feed water mechanism such as a shower nozzle, compact and convenient for portage and custody.

CONSTITUTION: A body projection of a body 1 and a support recess 17 of a hair washing tank 2 are fitted connectively each other, and the hair washing tank 2 can be freely opened and closed relative to the body 1. A shower nozzle 4 takes in water for a shower from a feed and discharge tank 5 to jet it. Thus, a compact unit type shower can be provided by opening and closing the hair washing tank 2 relative to the body 1.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio

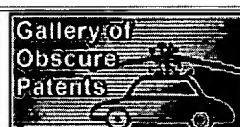
Family: None

Other Abstract Info: None



[View Image](#)

1 page



[Nominate this](#)



[for the Gallery...](#)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-38825

(43) 公開日 平成6年(1994)2月15日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	弁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 19/06		6704-3B		
A 4 7 K 3/22		7150-2D		

審査請求 未請求 請求項の数3(全 7 頁)

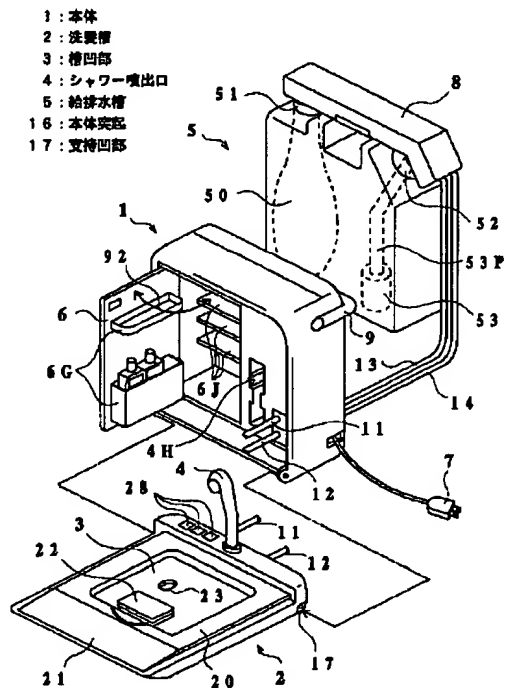
(21) 出願番号	特願平4-196734	(71) 出願人	000000309 和泉電気株式会社 大阪府大阪市淀川区三国本町1丁目10番40号
(22) 出願日	平成4年(1992)7月23日	(72) 発明者	青野 正司 大阪府大阪市淀川区三国本町1丁目10番40号 和泉電気株式会社内
		(72) 発明者	北浦 博己 大阪府大阪市淀川区三国本町1丁目10番40号 和泉電気株式会社内
		(72) 発明者	チャウ ビン ダック 大阪府大阪市淀川区三国本町1丁目10番40号 和泉電気株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 古谷 榮男 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ユニット型シャワー

(57) 【要約】

【目的】 シャワー噴出口等の給水機構を備えており、しかも小型で携帯や保管に便利なユニット型シャワーを提供することを目的とする。

【構成】 本体1の本体突起16と、洗髪槽2の支持凹部17とは、互いに嵌合して接続され、洗髪槽2は本体1に対して自在に開閉可能になっている。そして、シャワー噴出口4は、給排水槽5からのシャワー用水を取り込み噴出する。このように洗髪槽2が本体1に対して開閉することによって、コンパクトなユニット型シャワーを得ることができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】シャワー槽支持部を有する本体、
前記シャワー槽支持部に支持されて本体に接続されてい
るシャワー槽であって、槽凹部を有しており、槽凹部が
自在に本体から突出しまたは本体に対して一体的に収め
られるよう本体に接続されているシャワー槽、
本体またはシャワー槽に設けられており、シャワー槽の
槽凹部に向けてシャワー用水を噴出するシャワー噴出
口、
を備えたことを特徴とするユニット型シャワー。

【請求項2】請求項1のユニット型シャワーにおいて、
前記本体には給水槽が設けられており、
給水槽にはシャワー噴出口から噴出されるシャワー用水
が収納されている、
ことを特徴とするユニット型シャワー。

【請求項3】請求項1のユニット型シャワーにおいて、
シャワー槽は、本体に対して着脱可能である、
ことを特徴とするユニット型シャワー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はユニット型シャワーの構
造に関し、特にユニット化によりシャワーを小型にする
構造に関する。

【0002】

【従来の技術】ユニットタイプのシャワーとしては、例
えば図6に示すような洗髪器がある。この洗髪器は病人
の介護などに用いられ、病人を寝かせたまゝの状態で洗
髪するためのものである。

【0003】この洗髪器は、洗髪槽80が支持パイプ8
2によって支えられているもので、洗髪槽80の底面に
は排水用ホース81が設けられている。また、支持パイ
プ82のパイプ傾斜部82Kには、背当シート83が取
り付けられている。背当シート83は、洗髪槽80の両
側のパイプ傾斜部82Kで保持されており、この背当シ
ート83に病人の肩から背中をのせて洗髪が行われる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来の洗髪槽には次の
ような問題があった。図6の洗髪器には、洗髪槽80お
よび排水機構として排水ホース81が設けられている
が、洗髪用のシャワー噴出口が設けられていない。この
ため、洗髪の際にはシャワー噴出口等の給水機構を別
途、用意する必要があり、洗髪に手間がかかるという問
題があった。また、図6に示す洗髪器は、持ち運びや保
管に不便であるという問題もある。

【0005】そこで本発明は、シャワー噴出口等の給水
機構を備えており、しかも小型で携帯や保管に便利なユ
ニット型シャワーを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1に係るユニット
型シャワーは、シャワー槽支持部を有する本体、前記シ

2

ャワー槽支持部に支持されて本体に接続されているシャ
ワー槽であって、槽凹部を有しており、槽凹部が自在に
本体から突出しまたは本体に対して一体的に収められる
よう本体に接続されているシャワー槽、本体またはシャ
ワー槽に設けられており、シャワー槽の槽凹部に向けて
シャワー用水を噴出するシャワー噴出口、を備えたこと
を特徴としている。

【0007】請求項2に係るユニット型シャワーは、請
求項1のユニット型シャワーにおいて、前記本体には給
水槽が設けられており、給水槽にはシャワー噴出口から
噴出されるシャワー用水が収納されている、ことを特徴
としている。

【0008】請求項3に係るユニット型シャワーは、請
求項1のユニット型シャワーにおいて、シャワー槽は、
本体に対して着脱可能である、ことを特徴としている。

【0009】

【作用】請求項1に係るユニット型シャワーにおいて
は、本体にシャワー槽が接続されている。そして、この
シャワー槽は、槽凹部を有しており、槽凹部が自在に本
体から突出しまたは本体に対して一体的に収められるよ
う本体に接続されている。また、本体またはシャワー槽
にはシャワー噴出口が設けられている。

【0010】したがって、使用時には本体からシャワー
槽の槽凹部を突出させ、このシャワー槽の槽凹部に向
けて、シャワー噴出口からシャワー用水を噴出させるこ
とができる。また、使用後は本体に対してシャワー槽の槽
凹部を一体的に収めることができる。

【0011】請求項2に係るユニット型シャワーにおい
ては、本体に給水槽が設けられており、この給水槽には
シャワー噴出口から噴出されるシャワー用水が収納され
ている。

【0012】したがって、給水槽を別途、用意する必要
がない。

【0013】請求項3に係るユニット型シャワーにおい
ては、シャワー槽は、本体に対して着脱可能である。

【0014】したがって、使用状態に応じて、シャワー
槽を所望の場所、向きに位置させることができる。

【0015】

【実施例】本発明に係るユニット型シャワーの一実施例
を図面に基づいて説明する。まず、図1に本実施例にお
ける洗髪器の全体構成を示す。本体1からは給水用ホー
ス11、排水用ホース12が導出しており、はめ込み部
4Hが形成されている。また、収納扉6は矢印92方向
に開閉し、内部には収納ケース6Gや収納棚6Jが設け
られている。

【0016】この本体1には、シャワー槽としての洗髪
槽2が接続される。本体1にはシャワー槽支持部である
本体突起16が設けられており、この本体突起16が洗
髪槽2の支持凹部17に嵌合することによって接続が行
われる。洗髪槽2には、シャワー噴出口4が取り付けら

3

れている。このシャワー噴出口4は洗髪槽2に対して着脱自在であり、取り外して本体1の上記はめ込み部4Hに収納することができる。なお、シャワー噴出口4には給水ホース11が接続されており、このホースを通じてシャワー用水が噴出される。

【0017】シャワー噴出口4の詳細を図2B、Cに示す。シャワー噴出口4の背面には噴出スイッチ41が設けられている(図2C)。この噴出スイッチ41を「入」にすると噴出部45(図2B)からのシャワー用水の噴出が始り、「切」にすると噴出が停止する。また、水量調整スイッチ42、43を用いて水量を調整することもできる。

【0018】洗髪槽2には、図1に示すように、シャワー用水を受ける槽凹部3が形成されている。槽凹部3の周辺には槽周辺部20、枕部21が設けられており、洗髪を行う場合、これら槽周辺部20、枕部21にエアが送り込まれて頭部を支えるようになっている。槽凹部3内の頭受け部22にも、同様にエアが送られる。エアの送り込みは、洗髪槽2のエアスイッチ28の操作に基づいて制御される。なお、槽凹部3の底面には排水口23が設けられ、排水口23からの排水は排水ホース12を通過して取り出される。

【0019】図2Aは、本体1と洗髪槽2とが接続された状態を示す側面図である。洗髪槽2は、本体突起16を中心として矢印91方向に自在に回転する。すなわち、洗髪を行う時は洗髪槽2を開き、槽凹部3を本体1から突出させ、使用後は洗髪槽2を閉じ本体1に対して一体的に収めることができる。このため、洗髪槽全体をコンパクトにすることができ、携帯や保管が容易かつ便利になる。なお、持ち運びの際には、取っ手9を起すことができる。

【0020】シャワー用水は、図1に示す給排水槽5に収納されている。この給排水槽5には給水口52および排水口51が設けられており、これら給水口52、排水口51に対して給排水接続部8がセットされる。給排水接続部8には本体1からの給水ホース13および排水ホース14が接続されている。そして、給水ホース13および排水ホース14は、給排水接続部8を介してそれぞれ給排水槽5の給水口52、排水口51に通じるようになっている。なお、給排水接続部8は本体1の背面の収納スペース(図示せず)に組み込まれ、一体的に収められる。また、この給排水接続部8は、本体1の上面部に組み込んで収めるようにしてもよい。

【0021】給排水槽5の給水口52には、給水パイプ53Pを介してその先端に給水ポンプ53が設けられている。この給水ポンプ53の駆動によって、給排水槽5内のシャワー用水が汲み上げられ、給水ホース13、11を通じてシャワー噴出口4から噴出される。なお、給水ポンプ53を本体1内に設けて給排水槽5からシャワー用水を汲み上げるようにしてもよい。他方、排水口5

4

1には、給排水槽5内に位置する状態で排水袋50が取り付けられている。槽凹部3の排水口23からの排水は、排水ホース12、14を介して、この排水袋50に溜められる。

【0022】次に、図3に基づいてこの洗髪器の回路構成を説明する。シャワー噴出口4の噴出スイッチ41(図2C)を「入」にすると、この入力信号はラインL1を通じて本体1内のマイクロコンピュータ60に取り込まれる。マイクロコンピュータ60は、この入力信号に基づきラインL2を介して給排水槽5内の給水ポンプ53を駆動させる。

【0023】給水ポンプ53の駆動によって、給排水槽5内のシャワー用水は汲み上げられ、上記のように給水ホース13、11を通過してシャワー噴出口4から噴出される。また、水量調整スイッチ42、43が操作された場合、マイクロコンピュータ60は給水ポンプ53の回転数を制御し、これによって水量が調整される。なお、給排水槽5内のヒーター63はマイクロコンピュータ60に接続されており、シャワー用水の水温を知ることができる。

【0024】本体1には排水ポンプ61も設けられている。この排水ポンプ61にも、ラインL3を通じてマイクロコンピュータ60からの指令が与えられ、この指令に基づいて排水ポンプ61は駆動する。排水ポンプ61の駆動により、槽凹部3の排水口23(図1)から排水が取り込まれ、上述のように、排水ホース12、14を介して給排水槽5内の排水袋50に溜められる。この排水ポンプ61は、洗髪槽2に設けるようにしてもよい。なお、以上の動作に必要な電力は、本体1に設けられているコンセント7(図1)を通じて供給される。

【0025】また、洗髪槽2の槽周辺部20、枕部21および頭受け部22(図1参照)に対するエアの送り込みも、マイクロコンピュータ60によって制御される。すなわち、洗髪槽2のエアスイッチ28が操作されると、この入力信号はラインL5を介してマイクロコンピュータ60に与えられる。マイクロコンピュータ60は、これを受けてエアポンプ62を駆動させ、エアホースW1を通じて槽周辺部20、枕部21および頭受け部22にエアが送り込まれる。

【0026】図4に洗髪器の他の実施例を掲げる。この洗髪器は図4Aに示すように、シャワー槽支持部として二本の開閉アーム70が用いられている。この開閉アーム70は、その一端が本体1の内壁の軸部(図示せず)に回転可能に保持されており、この軸部を中心として矢印93方向に回転するようになっている。

【0027】そして、開閉アーム70の他端には、内側に向けてスライド用突起が形成されており(図示せず)、このスライド用突起は洗髪槽2のスライド溝71にはまり込んでいる。すなわち、図4に示す洗髪槽2は、スライド溝71に沿って矢印94方向に自在にスラ

5

イド移動する。また、開閉アーム70他端のスライド用突起を中心として矢印95方向に回転し、洗髪槽2自体の角度も変化するようにになっている。

【0028】このように、開閉アーム70を介して洗髪槽2の開閉が行われることで、洗髪槽2を本体1から離れた状態に位置させることができるとともに、洗髪槽2の高さM1を自在に調整することができる。このため、例えば蒲団の厚みを、高さM1で吸収することが可能となり、より有効に洗髪器を使用することができる。図4Bは、洗髪槽2が閉じられた状態を示している。なお、図4Aにおいては、シャワー噴出口4その他の詳細は省略されている。

【0029】さらに他の実施例を図5に示す。この洗髪器は、本体1内に給排水槽5を収納するタイプのものである。本体1には本体蓋10が設けられており、この本体蓋10は蓋軸10Jを中心に矢印97方向に開閉することができる。そして、本体1内には収納スペースが形成されており、ここに給排水槽5を矢印96方向に収納した後、本体蓋10を閉じる。

【0030】ここで、本体蓋10には、図に示すように、給排水接続部8が固定されている。この給排水接続部8には、上述のように給水ホース13および排水ホース14が接続されている。すなわち、本体蓋10を開けると同時に、給水ホース13および排水ホース14が、それぞれ給排水槽5の排水口51、給水口52に接続され、セットされるようになっている。こうして、給排水槽5に対する給水および排水が行われる。

【0031】また、図5の洗髪器は、洗髪槽2が本体1に対して開閉するだけでなく、本体1から分離できるようになっている。洗髪槽2の分離によって、使用状態に応じ、洗髪槽2を所望の場所、向きに位置させることが可能になる。なお、洗髪槽2には、本体1からの排水ホース12が接続されている。

【0032】図1、図4に示す洗髪器についても、図5の洗髪器のように、本体1内に給排水槽を収納できるようにしてもよい。また、図1の洗髪器を、洗髪槽2が分離するタイプのものでしてもよい。なお、図5において、シャワー噴出口4その他の詳細は省略されている。

【0033】以上の各実施例では洗髪器を例に説明したが、本発明はこれに限られるものではなく、例えば屋外用の給排水設備として用いることもできる。

【0034】

【発明の効果】請求項1に係るユニット型シャワーにおいては、本体にシャワー槽が接続されている。そして、このシャワー槽は、槽凹部を有しており、槽凹部が自在に本体から突出または本体に対して一体的に収められ

6

るよう本体に接続されている。また、本体またはシャワー槽にはシャワー噴出口が設けられている。すなわち、使用時には本体からシャワー槽の槽凹部を突出させ、このシャワー槽の槽凹部に向けて、シャワー噴出口からシャワー用水を噴出させることができる。また、使用後は本体に対してシャワー槽の槽凹部を一体的に収めることができる。

【0035】したがって、シャワー噴出口等の給水機構を備えており、しかも小型で携帯や保管に便利なユニット型シャワーを得ることができる。

【0036】請求項2に係るユニット型シャワーにおいては、本体に給水槽が設けられており、この給水槽にはシャワー噴出口から噴出されるシャワー用水が収納されている。すなわち、給水槽を別途、用意する必要がない。

【0037】したがって、シャワー用水が収納されている給水槽を一体的に備えることにより、ユニット型シャワーの製品価値をさらに高めることができる。

【0038】請求項3に係るユニット型シャワーにおいては、シャワー槽は、本体に対して着脱可能である。すなわち、使用状態に応じて、シャワー槽を所望の場所、向きに位置させることができる。

【0039】したがって、あらゆる状況に応じて使用することができ、ユニット型シャワーの汎用性を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るユニット型シャワーの一実施例である洗髪器の全体構成を示す図である。

【図2】図1に示す洗髪器の側面図、およびシャワー噴出口の拡大図である。

【図3】図1に示す洗髪器の回路構成を示すブロック図である。

【図4】本発明に係るユニット型シャワーの他の実施例の洗髪器を示す図である。

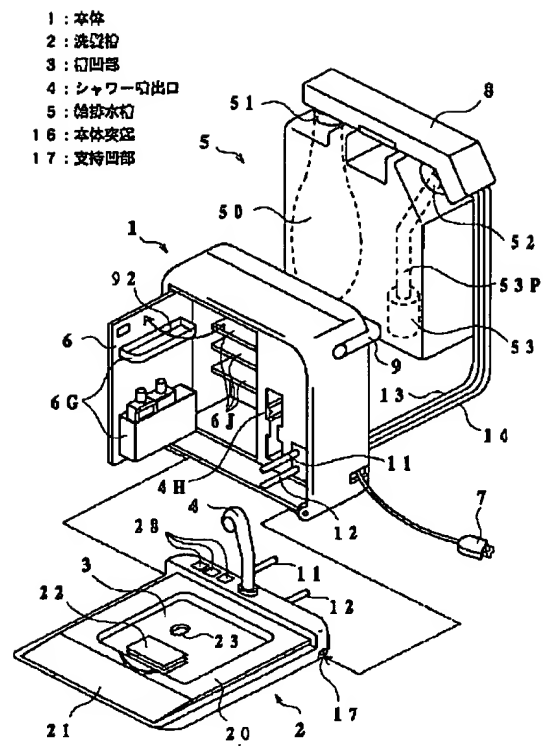
【図5】本発明に係るユニット型シャワーの他の実施例の洗髪器を示す図である。

【図6】従来の洗髪器を示す図である。

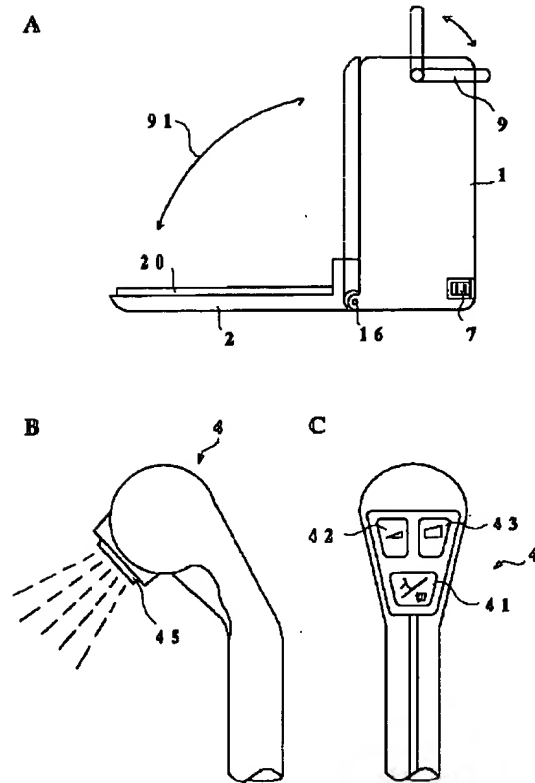
【符号の説明】

- 1・・・本体
- 2・・・洗髪槽
- 3・・・槽凹部
- 4・・・シャワー噴出口
- 5・・・給排水槽
- 16・・・本体突起
- 17・・・支持凹部
- 70・・・開閉アーム

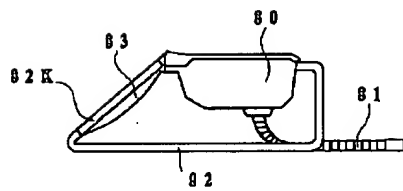
【図1】



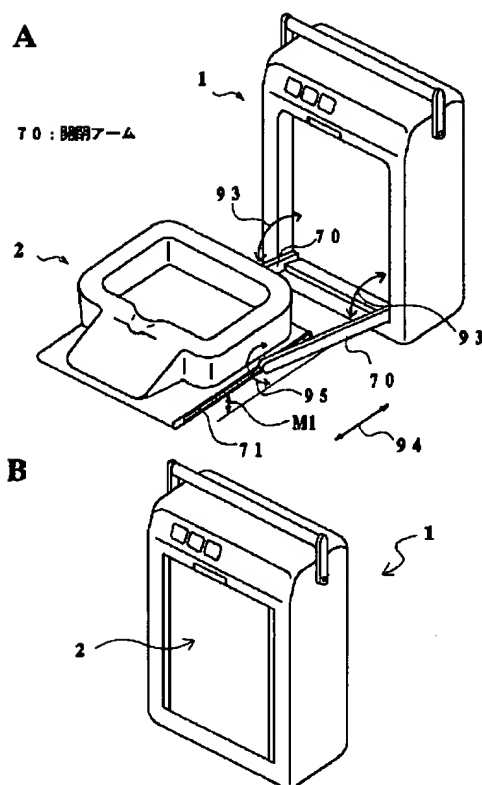
【図2】



【図6】



【図4】



【図5】

